(表面)

人事課長 給与厚生GL 課員 所属長 G L 課員

額改定認定請求書 児童手当・特例給付 額 改 定 届

(あて先) 八戸地域広域市町村圏事務組合管理者

提出年月日 年 月日

職員コード]				年	月	日		
(フリカ`ナ) 受 氏名		FI	住							
給			,,	•	電	:話	()	
者 性 別 男・女	生年 月日	年	月	E	∃	所 属				
増額又は減額の別増額・減額										
増額又は減額の原因となる児童										
(フリガナ) 氏 名 個人番号	続柄	生年月日 同居		毎外留学をし こいる場合の 出国年月	住所(5	別居の場合	・のみ)	監護の 有無	生計関係	児童との関係
		同	• 別	年 月				有・無	同一 ・ 維持	・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母
		同	• 別	年 月				有・無	同一 ・ 維持	・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母
		同	• 別	年 月				有・無	同一 • 維持	・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母
		同	• 別	年月				有・無	同一 ・ 維持	・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母
			• 別	年月				有・無	同一 ・ 維持	・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母
増額した理由	ア. 出 生	イ. そ(の他()	
減額した理由	ア. 死亡した キ. 父母指定者でなくなった イ. 監護しなくなった (児童の生計を維持する父母等の帰国) ウ. 生計を同じくしなくなった ク. 里親等への委託又は児童福祉施設等への入所 エ. 生計を維持しなくなった 若しくは入院 オ. 日本国内に住所を有しなくなった ケ. 児童と同居しなくなった (留学を理由とするものを除く) (単身赴任の場合を除く)									の入所
* * * * * * * * * *	カ. 未成年後	見人でなくなっ	った		コ. その)	
事由の発生した年月日				年	到点 フェ	月	司 36		王 W	口佐
				認定	認定・改定・却下年月日 認定・改定年月 手 当 月 額 改定前月額					
考				改定	年	月日	年	月	改定征	円
				却下	十	/1 H	7	71		円

注意

- 1 この用紙は、受給者が養育(監護し、かつ、生計を同じくするか又は生計を維持することをいいます。 以下同様です。)をする児童(18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者をいいます。) に異動があり、その結果、児童手当等(児童手当及び特例給付をいいます。以下同様です。)の額が増額 又は減額する場合に、その増額又は減額の原因となる児童について記入の上、提出してください。 なお、児童手当等の額が減額する場合は、「監護の有無」及び「生計関係」の欄は記入する必要があり ません。
- 2 児童が海外に留学している場合には、「海外留学をしている場合の出国年月」の欄に、いつから留学しているか(出国した年月)を記入してください。
- 3 「住所」の欄は、住民票上の住所を記入してください。
- 4 「生計関係」の欄は、次によって記入してください。
 - ① 「同一」は、児童が受給者自身の子である場合や受給者が未成年後見人又は父母指定者である場合で、受給者がその児童と生計を同じくしているときに○で囲んでください。
 - ② 「維持」は、児童が受給者自身の子でない場合で、受給者がその児童の生計を維持しているとき に○で囲んでください。
- 5 「増額した理由」の欄は、「ア」又は「イ」のいずれか該当するものを○で囲み、「イ」を○で囲んだ場合には、その理由を具体的に記入してください。
- 6 「減額した理由」の欄は、「ア」から「コ」までのいずれか該当するものを○で囲み、「コ」を○で囲んだ場合には、その理由を具体的に記入してください。(※「ク. 里親等への委託又は児童福祉施設等への入所若しくは入院」については、委託又は入所若しくは入院が2月以内の期間を定めて行われたものである等一定の要件に該当する場合は該当せず、額改定届を提出する必要はありません。)
- 7 「事由の発生した年月日」の欄は、「5」又は「6」の事由の発生した年月日を記入してください。
- 8 この請求書には、児童手当等の額が増額する場合は、増額の原因となる児童について、次の書類を添えて提出してください。なお、当該書類により証明すべき事実を公募等(マイナンバー制度による情報連携を含みます。)によって組合が確認することができるときは、当該書類は省略することができます。
 - ① 児童の住民票の写し又は住民票記載事項証明書であって、その者が世帯主である場合にはその旨、 その者が世帯主でない場合には世帯主との続柄が記載されたもの
 - ② 児童が海外に留学をしている場合は、当該児童が日本国内に住所を有しなくなった日の前日まで 引き続き3年を超えて日本国内に住所を有し、教育を受けることを目的として外国に居住していること を明らかにすることができる書類
- ③ 児童が受給者自身の子であり、受給者がその児童と別居している場合は、受給者のその児童に対する養育の状況を明らかにすることができる書類
- ④ 受給者が未成年後見人である場合は、当該事実を明らかにすることができる書類
- ⑤ 受給者が父母指定者である場合は、当該事実を明らかにすることができる書類
- ⑥ 児童が受給者自身の子でない場合は、父母とその児童との養育関係及び受給者とその児童との 養育関係を明らかにすることができる書類(受給者が未成年後見人又は父母指定者である場合を除く。)
- ⑦ 生計を同じくしない配偶者等と別居し、児童と同居している場合は、当該事実を明らかにすること ができる書類